

**Q1:親子上場の関係性とシナジーについて**

親会社との関係性については親会社のHPに「上場子会社の独立性を尊重する」と掲載されている通り、上場会社としてのガバナンスは適切に確保されていると考えている。また、シナジーは現状原料調達などで出ており、今後は更に海外事業でも人材面、情報収集面などで効果を出していきたい。

**Q2:25年3月期加工食品セグメントの為替影響によるコストアップの見込と今期の増益要因に生産性改善を掲げた背景について**

為替が計画策定時から円安に進行しており下期より影響が出ると思われる。現在の為替で想定すると下期10億円強くらいのコストアップをイメージしている。4月から5回目の価格改定を行い今期39億円の価格改定効果を計画に織り込んでいるが、事業環境が好転しなければ秋には6回目の価格改定も考えないといけない。

生産性改善については従来より取り組んでいたものの鹿児島工場建設など大きな投資による全体効率の改善として捉えられていた。大きな投資が一巡し今期は各工場の生産性改善として設備の高速化や製造ラインの短縮化、商品構成の改善などに取り組みこれらを見込んでいる。

**Q3:25年度の営業利益率が前期より下がっているのはDX投資によるものなのか、また投資の減価償却や効果が出てくる時期をうかがいたい。**

ご指摘の通り25年度の営業利益減益はDXの減価償却費及びその他の関連経費によるもの。また25年度中にシステム刷新による自動化や標準化が固まり26年度以降効果が見えてくると思われる。

**Q4:今期の価格改定効果をどのような根拠で見込んでいるか。**

香薫は消費者が購入しやすい価格帯で美味しいことが支持を受け販売シェアの拡大が続いている。4月に5回目の価格改定を行ったが当社は販売シェアを引き続き拡大しており、今後もキャンペーン等を活用して消費者の購買意欲を高めていく。また配送の積載効率にも取り組む。

**Q5:市場では牛、豚、鶏の構成比に変化が出ている。市場の需要は鶏へのシフトが進んでいるが当社は今後どのように取り組んでいくか**

当社の食肉事業は売上規模が同業と比較して大きくないが市場の変化をチャンスと捉えている。養豚をはじめとする豚や牛は当社が得意とする豪州産を拡販、鶏はサプライヤーの新規開発など牛、豚、鶏全畜種取り組む。構成比は市場の需要で変化するので需要がシフトすれば構成比も変わると思われる。

**Q6:配当性向を上げ中間配当も均等にしているが単体の分配可能原資に問題ないか**

問題ない。